



09年1月、皇居マラソンで



都内の武道場で開かれる「脱ヒキファイタークラブ」

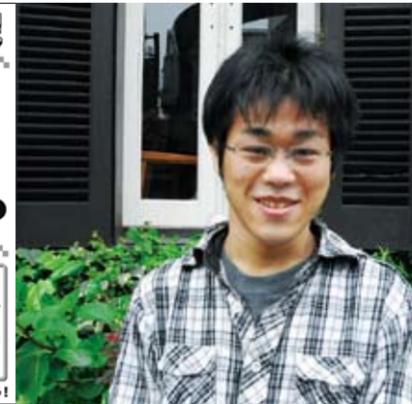
**レンタル空手家**  
空手を出張指導します！  
ひきこもりや心の問題などに悩む方「空手」をやってみませんか？  
(それ以外の人もOK！)空手は、体を使った安全なコミュニケーションの練習です。  
でも「外に出る自信がない」「大勢の中でまだやりたくない」「道場に行く時間がとれない」  
それなら、僕が行きます！  
<http://forfuture.web.fc2.com/>  
「レンタル空手家」で検索してもOK！  
まずはHPを見て下さい！

●空手家派遣料  
●出張費、少人数、出張の距離使用料  
●お風呂、お風呂使用料  
●お風呂、お風呂使用料  
●お風呂、お風呂使用料

●空手家派遣料  
●出張費、少人数、出張の距離使用料  
●お風呂、お風呂使用料  
●お風呂、お風呂使用料

●空手家派遣料  
●出張費、少人数、出張の距離使用料  
●お風呂、お風呂使用料  
●お風呂、お風呂使用料

「レンタル空手家」フライヤー



魚田 博さん



遠藤 一さん

# Hungry Mission

for Mission  
「志」を求める若者たち⑧

## 元・当事者がニートの自立を支援

**NPOシゴトノアトリエ**  
無業者の自立を支援するジョブカフェや若者自立塾は成果を上げていない。誰もがしたがらない仕事や雇用されることばかり無理強いされるからだ。そこで個々のスキルと自主性を重視して仕事を創る当事者団体が誕生した。

(聞き手・今一生) 〓文中敬称略

**遠藤 一 (29歳)** NPOシゴトノアトリエ代表理事。「レンタル空手家」事業部長。元ひきこもり。フリーライター。

**魚田 博 (25歳)** NPOシゴトノアトリエの「コンピュターおにいちゃん」事業部長。元ニート。フリーライター。

「なぜ、ニートやひきこもりを支援し始めたのですか。」  
**遠藤** 僕自身が19歳の頃から4年間もひきこもっていたからです。大学受験生なのにまるで勉強する気がなくて、未来への夢も見えず、バイトを週何日かしながらマンガや本を読むことで時間をつぶしていました。とても不安でした。誰も助けてくれないし。22歳の頃から空手を

始めた。ひきこもりや自傷癖の暮らしから脱出できたんですね。だから、黒帯をとって数カ月した2007年の春からかつての自分のようなひきこもりに「その気になった時でいいから一緒に体を動かそう」とブログから呼びかけて、自宅出張して体力作りに一緒に汗を流す「レンタル空手家」事業を始めたんです。

「2年で『のべ100人以上』のひきこもりが外に出るきっかけを作ったぞうですね。」

**遠藤** 外に出たら僕と直接話せますから、安心してリピーターになってくれたり、精神科のデイケアからも頼まれて空手を患者たちに教えるようになりました。また、空手に抵抗ある人向けに参加の敷居を下げようと、08年から毎年1月に全国のニートや引きこもりに呼びかけて皇居を二人一組で一周するマラソン大会をやるなど、一緒に汗を流して交流するチャンスを増やしてきました。こうし

てニートやひきこもりの人たちと出会っていきくと、彼らが無理に働かされたり、雇用されることを嫌がっていたり、みんな違う人生を歩んでしまっていて社会復帰できないことを怖がっている気持ちに直面して、「元ひきこもり」の自分だからこそできる支援があるんじゃないかって。

「政府が税金で試みたジョブカフェや若者自立塾は、支援スタッフの給与を保証しても、支援される側のひきこもりやニートを自立させる成果はあげていませんからね。」

**遠藤** そういうところはニート一人ひとりの事情やスキルをちゃんと重視していかないし、支援しなくてもスタッフは安定した暮らしを送れるから、金がなくて本当に困らんだってという当事者の気持ちをおわかってほしいです。僕だって行きたくないですよ。だから自分の力のかつての自分のような人と一緒に仕事を作ろうと思ったんです。

レンタル空手では、ひきこもっている本人が自宅出張や相談を頼んでこない限り、こつちから動くことはしません。本人の家族から頼まれても動きません。あくまで本人の意志を尊重します。すると、体力がついてきた当事者は次に具体的な収入手段を欲しがるようになる。でも、嫌々会社に通って、身に付けたくもない職業技術を人並みになるまでたたき込まれても、低賃金で働かされる生活はみんな嫌がります。

「逆に、現時点での能力のままで自分のペースで稼げる自営業やビジネスモデルを一緒に考えて実行していけば、自力で無理なく収入手段を作っていけますよね。」

**魚田** その通りだと思います。そこでこの4月から「NPO法人シゴトノアトリエ」と名乗ることで、たいていのニートなら今すぐにもできる仕事として「コンピュターおにいちゃん事業」を始めました。

これは高齢者を中心とした、パソコンを触ったことさえない超初心者客に対して、客のニーズに合わせてパソコンやインターネットなどを手とり足とり教えるものです。だから、就職面接で要求されるような、高いPCスキルや知識は必要

ありません。僕も実際に教え始めて気が付いたんですが、パソコンの超初心者にとっては、ニートやひきこもりみたいに一日中パソコンを触っている人って、まるで神様みたいな存在なんですよ(笑)。もう、「先生すごいですね、何でも知っているんですね!」って。僕にとっては、好きなパソコンの話しながらパソコンの使い方をお教えているだけなんですけど、ものすごく感謝されるんです。

**遠藤** 自分より能力が高い人はいくらでもいるけど、そこを目指せばライバルも多くなって疲れちゃう。でも、自分より能力が低い人がいる分野をニートなどの社会的弱者の当事者と一緒に個別に考えていけば、今の能力のままで十分に稼げる労働市場があるはずで、しかも未開拓の分野は多いうえに、会社組織では顧客単価が高くなってしまっているのでライバルもいない。だから、スタートラインが遅いのに「人並み」を強いられることで仕事に萎縮してしまふニートやひきこもりに、うってつけなんです。

「最近では、「人並みのことができない」と思われがちの障がい者の中でも自分のやりたいことや仕事に挑戦している人を「チャレンジド」と呼んで、「一

方的に支援される対象」ではなく対等なパートナーとして付き合う空気がありますが、貴団体でもそのようにニート支援の仕組みを根本的に変えていこうというわけですね。

**遠藤** そうです。従来の支援ならニートやひきこもりを「100%支援される側」として見ていたでしょうが、僕たちは同じ経験の持ち主だから一蓮托生の仲間として一緒にビジネスを作って収益を分け合い、助け合える仕組みを作りたいんですよ。政治や行政に文句を言っても一銭にもならないし、不満を言ってる余裕なんてない。

**魚田** 「コンピュターおにいちゃん事業」でも、一人で高齢者の客に教えるのが不安なら僕たちが伴走します。不慣れなうちは一緒にお客様の自宅に訪問し、ニートがパソコンを教えやすいようにサポートします。慣れてきたら一人で訪問することにしますが、その際も不安な点があれば、すぐに電話などでサポートします。

**遠藤** ニートという経験はその人に固有の資産だから、講演や書籍で収益を作ったり、ニートからの相談に「元ニート」が乗ったりするだけでお金になる事業も作っていく予定です。

### 不安なら僕たちが伴走します——魚田

この続きは、オルタナのウェブサイト <http://www.alterna.co.jp/>に掲載いたします。

<http://www.alterna.co.jp/>  
全文はウェブサイト掲載